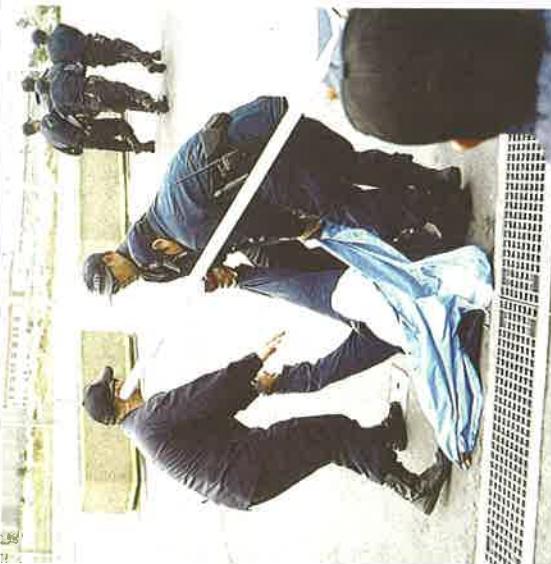


「県民への不適弾圧だ」

辺野古反対派逮捕 名護署取り囲む



米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に反対する辺野古の怒りが、さらに燃え上がった。二十二日、沖縄平和運動センターセンターの山城博治議長ら二人が逮捕された。名護署には約五百人が集まり、抗議の声を上げた。

●1面参照

名護署の周囲を人垣が取り囲んだ。署の門には県警の機動隊約五十人が警戒。市民からは署長による説明も求めたが、姿を見せるこ

はなかつた。次富浩共同代表は「米軍による県民の運動への不当な弾圧だ」と述べた。

拘束直前、一緒に抗議運動に参加していた宮吉平和運動連絡協議会の清水早子共同代表は「(拘束時は)転んだ人を助けようと複数の人人が取り囲み、混乱した状況だった。一人だけを拘束したのは恣意的だ」と指摘し、「反対運動を抑え込むために狙い撃ちしたのでないのか」とびがかつた。拘束された男性の兄も駆け付け、弁護士から接見の結果を聞いた。「後ろから引き倒されたといい、もやは暴力だ。拘束の根拠もあいまいで納得できない」と憤った。

市倉が企業から産業

一九四五年三月に沖縄県の慶良間諸島であった集団自決について、生存者から聞き取り、伝える活動をしている神奈川県大和市下福田中学校の教諭津田憲一さん(60)の講演会が二十二日、金沢市で開かれた。同市の平和サークル「おきわづぼうじの会」が主催した。

津田さんは集団自決の生存者の聞き取りを始めたきっかけは、一〇〇七年の高校日本史の教科書検定だ。集団自決について、日本軍の強制に関する記述に「誤解を招くやそれがある」との意見がつき、出版社側が日本軍の強制に触れない表現に修正。沖縄では大規模な県民集会が開かれた。八八年、慶良間諸島の座間味島を訪問し、生存者の話を聞いた。「日本軍から自決用に手りゆう弾を渡された」「校長先生がカミソリで首を切り、その血が降りかかる」と。望まない自決を追うた。

集団自決化せぬ

れた無念、そして、悲惨な光景。今までほんの語つてこなかつた記憶を、生存者は津田さんに語つた。

「自分たちが黙っていたために、集団自決がないものと

冊子にするかどうか迷つた時、現地の人から背中を押された。

金沢で講演会

「おじいやおばあは話しかけてくれないことを話した。つかれた。

使つた授業



集団自決の聞き取りを始めるきっかけとなつた沖縄の県民集会を伝える新聞を手に語る津田憲一さん=22日、金沢市内で

覚える。津田さんだ。「おきわづぼうじの会」の事実

の如きがゆがみで漂う。事実

の如きがゆがみで漂う。

の如きがゆがみで漂う。

の如きがゆがみで漂う。

の如きがゆがみで漂う。

の如きがゆがみで漂う。

の如きがゆがみで漂う。